

令和4年度第3回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和5年2月22日(水) 14:00~15:30

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 構成員7名 事務局5名

(構成員) 藤本 真里 座長 米谷 啓和 氏 井上 清美 氏  
大西 麻衣子 氏 橋 正人 氏 前川 裕司 氏  
岩田 和代 氏

(事務局) 市民参画部 平石部長、市民活動推進課 門口 課長  
市民活動・ボランティアサポートセンター 佃 所長 岸本 係長 得平 主任

次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) センターの登録団体等へのアンケート結果について
- (2) 第10回ひめじおんまつりについて

3 閉 会

## 会議の進行記録（要点記載）

事務局： 議題1「センターの登録団体等へのアンケート結果について」を資料1に従って説明

座長： ひめじおんまつりは、参加団体の人たちが企画し、実施しているというのが本来の姿である。しかし、外から見ると、多くの方は市が実施していると思っている。続けてほしいが、実行委員はやりたくないという考えが多数だと思う。継続していくには、参加団体も自分たちが運営に関わっていく必要がある。

構成員： 自治会が持っている地域課題の解決について、NPO・ボランティア団体との連携の現状はどうか。

事務局： 自治会のような地域団体とNPO・ボランティア団体の関係は、あまり広がっていないと思う。年に数回程度マッチングの相談がある程度で、関係が見えてこない。例えば、ある自治会の役員の方が、NPO・ボランティア団体の代表であれば、連携していても不思議ではない。

構成員： 地域によって事情は違う。

構成員： 今、地域共生と言われているので、そういうところに焦点をあてて、取り組んでいけば。例えば、地域伝承についても、地域ごとにそれぞれ課題があると思う。

事務局： グラフをみても、前回に比べ、ボランティアの年齢層が高くなっている。これは年金の支給開始年齢の引き上げによる定年延長の影響があるかと思う。そのことを踏まえると、今後は有償ボランティアについても考えていく必要がある。

構成員： 今、社会参加を有償で取り組んでいくという動きが出てきている。例えば、宝塚市が取り組んでいて、他都市への広がりもみせている。単にボランティアをするというだけでは、人が集まらないが、有償であれば、参加者が増える。生活支援という観点で有償ボランティアのマッチングを行っていった方が、地域貢献にもなる。これは、民間だけでは進まないのも、行政側が真剣に考えないといけない。それは、お金を出すということではなく、例えば、調整役として場を提供するということである。無償ボランティアだけでは限界がある。交通費を支給するというのも有償ボランティアの一つで、参加者も増えてくる。まずは、地域活動の中

でそのようなマッチングをしていくのがよい。

座長： 前回よりもアンケートの回答率が下がっている要因をどうみているのか。

事務局： 登録が未更新のままになっている団体が年々増えており、それがアンケートにも反映している。

事務局： コロナの影響で活動する場が減ってモチベーションが下がり、その結果活動をやめる団体が増えている。

構成員： 自治会の会員数は今どうなっているのか

事務局： 自治会の加入率は 89.6%である。中核市ではベスト 3に入っている。

座長： 登録抹消や接触の機会が少ない団体や個人の意見が聞きたいが、センターにいてもわからないし、アンケートにも反映されない。

事務局： 見えないところを知りたい。

座長： 全てでなくても、一部の団体や個人がわかるとよい。

事務局： 議題 2「第 10 回ひめじおんまつりについて」を資料 2 に従って説明

構成員： 例年に比べて、来場者が少なかった。今回が最後ということで、高等学校等に積極的に呼びかけを行わなかった。もし、来年も継続するのであれば、違っていた。参加団体からは、今回で終了するのはとても残念で、できれば来年も継続してほしいという声を聞いている。来年度以降は、ステージと展示を分けて別の日に開催した方がよいと思う。

構成員： 私は逆の考えで、最後だからこそ、たくさんの人に来てほしくて、チラシやポスターなど積極的に PR した。しかし、来場者が少ないという印象だった。やはり、新型コロナウイルスのため、2年のブランクがあったことも影響していると思う。景品交換を担当していたが、実行委員のメンバーのすべてが当日スタッフとして動いていたわけではなく、ボランティアの参加も少なかったので、現場が忙しくて離れた場所の状況はよくわからなかった。

構成員： 今後、このような大規模なイベントをやめるのか、それとも今の形式を見直すのか。また、予算措置はどうなっているのか。

事務局： これまでの実行委員会形式のひめじおんまつりは一旦休止する。来年度からは、この運営会議でいただいた意見をもとに、市主催で新しい事業を行う。まず、11月の1か月間をボランティアマンスリーとして、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象にしたボランティアメニューを提供し、体験してもらう。登録団体には、活動をアピールできる場を提供する。次に、姫路のボランティア活動を見てもらうために、姫路駅前でも一日 PR イベントを開催する予定で、そこでは、活動資金の確保のために物販をしてもらったり、野外ステージでの活動発表を行ってもらう。それらに必要な予算については、最低限確保している。

構成員： ひめじおんまつりは、センターにとって象徴的な事業であり、そのあり方や機能、目的をもう一度見直すということであれば、運営会議で議論したい。

座長： 当初始まったときに、実行委員会のメンバーがこれほど頑張っているイベントはないと思った。第10回で区切りをつけることはいいことだと思う。一旦リフレッシュして、もし必要であれば、また再開すればいい。

構成員： 大学の立場で話をすると、一日だけではなく、マンスリーのイベントだと学生にも声をかけやすい。ボランティア論という科目もあるので、関係する学生に PR をしていきたい。若者のボランティア参加が少ないという課題がある中で、学生が参加しやすい時期もあるので、そこにつながるようなサポートをしていきたい。

座長： 今後の市民団体同士の交流の場について、この会議の議題に取り上げてもらって、議論すればよい。

構成員： 先日、神戸市内の4か所で NPO・地域貢献活動フェアが開催されていたので参加した。分散型のイベントで、エリアごとにブースが設置され、参加者には自分が気になった団体への参画を促していた。これは、参加者自身がどう地域貢献をしていくのかというマッチングである。

現在、センターでは、市民活動団体やボランティア団体の目線で事業を行っているが、今後、市民目線で作り変えていく必要がある。NPO 目線から市民目線に明らかに軸足が変化しているので、来年度実施する事業についても、そこがポイントになるだろう。

座長： 私も見学したが、予想以上に参加者がいて、積極的にマッチングを行っていたので、とても賑わっていた。神戸は人口が多いので、単純に比較できないが、工夫次第では、姫路でも同様のイベントができると思う。センター主催の来年度のイベントについても、参加団体を増やして盛り上げるために、実行委員に声がけすると、いい形で協力してもらえらるだろう。

構成員： 初めてひめじおんまつりを見学したが、各展示ブースの皆さんにはとても親切に対応してもらった。来年度から形を変えて開催するとのことであるが、将来のボランティア活動を背負っていく子どもが参加できるイベントになればいいと思う。子供が参加すれば、親も一緒についてくるので、参加者が増えてアピールできるのでは。

構成員： 今後、地域の公民館との連携に力を入れたらよい。

構成員： 自治会活動にも課題は多く、とりわけ担い手がいないという現状がある。自治会は町ごとに縦割りになっているが、横のつながりが必要である。今はNPO・ボランティアと自治会は別という時代ではなく、自治会もNPO・ボランティアの感覚がないと、人が集まらないし、運営が困難になる。これからは、自治会、NPO・ボランティア、市民活動団体が融合していくべきだ。

座長： 市の方で、自治会活動のモデル事業を実施していたと思うが、それについての説明を。

事務局： 市内3地区で3年間取り組んでもらった。公民館を拠点にして、どのようにすれば地域活動が盛り上がるのかについて、計画を作って実施し、途中で修正もしながら、最後に検証を行った。計画通りにいったかどうかについては、うまくいかなかった部分もあったが、それも成果のひとつである。地域の人がたくさん集まればいろいろな意見が出てきて、自分の得意な分野を活かして、活動しようという人が現れることがわかった。

構成員： 最近、地元の公民館で、庭木の剪定講座を行ったが、今まで参加したことがない人たちがやってきた。同じ地域の自治会のメンバーなのに、講座のテーマを変えると、場の雰囲気も変わること気が付くことができた。

事務局： 自治会はNPOやボランティア団体と違って、市から予算が出るので、そういっ

た事業ができる。